

2009 年度 小委員会活動成果報告

(20 年 月 日作成)

小委員会名	収縮低減材料を用いたコンクリートの調査・施工に関する研究小委員会	主 査 名：名和豊春 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	材料施工委員会 (RC 工事運営委員会)	委員長名：阿部道彦 主 査 名：阿部道彦
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2012 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>・2008 年度版 JASS 5 で規定された乾燥収縮ひずみ 800×10^{-6} 以下の目標を実施するために、技術の現状を取りまとめるとともに、それらの成果に基づいて「収縮低減材料を用いたコンクリートの調査・施工指針」を作成する。</p> <p>・初年度～2 年度： 骨材、膨張剤および収縮低減剤、調合方法、養生が収縮ひび割れに及ぼす影響に関する技術の現状の取り纏め、拘束収縮ひび割れ試験の検討を行う。</p> <p>・2 年度～4 年度：初年度活動の継続と、調査結果に基づいた「収縮低減材料を用いたコンクリートの調査・施工指針」の作成を行う。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：有</p> <p>名和豊春 (主査, 北大), 古賀康男 (幹事, 宇部三菱セメ研), 井ノ川尚 (住友大阪セメ), 閑田徹志 (鹿島), 木之下光男 (竹本油脂), 黒岩秀介 (大成), 佐々木博隆 (花王), 菅俣 匠 (NMB), 杉山 央 (建研), 棚野博之 (建研), 谷村 充 (太平洋セメ), 檀 康弘 (新日鐵高炉), 西田 朗 (清水), 野口貴文 (東大), 保利彰宏 (電化), 兼松名学 (東理大)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>①有機系混和材料WG：収縮低減剤、収縮低減タイプの減水剤などの収縮低減機能を有する混和剤について、材料、調合、施工に関する技術の現状を調査し、取り纏める。</p> <p>②無機系混和材料WG：膨張材などの収縮低減機能を有する混和材について、材料、調合、施工に関する技術の現状を調査し、取り纏める。</p>	
2009 年度予算	150,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (主査幹事会、WG 委員会、年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 混和剤 WG、混和材 WG の委員の公募を行い、技術の現状について調査する組織作りを行った。</p> <p>2. 拘束ひび割れ試験の共通実験を JCI の協力により実施できた。</p> <p>3. JASS 5 改定に伴う材料関係の課題であった凍結融解抵抗性の高い収縮低減剤の開発を促進することができた。</p>
委員会活動の問題点・課題	組織作りに時間が掛かり、始動が遅くなった。当初は、技術の現状について取り纏めを行い講習会で公表して、その後それに基づいて指針を作成する予定であったが、今後は並行して進行させることとした。